

今年の4月からMR（はしか・風疹混合ワクチン）ワクチンを打ったこどもに限って、6月からは就学前のすべてのお子さんを対象にMRワクチンを中心としたはしかと風疹ワクチンの2回接種制度が導入されました。どちらもこどもの免疫が低下するからというのが理由のようですが、よく意味がわかりません。小学生のこどもにも2回目の予防接種が必要ですか？

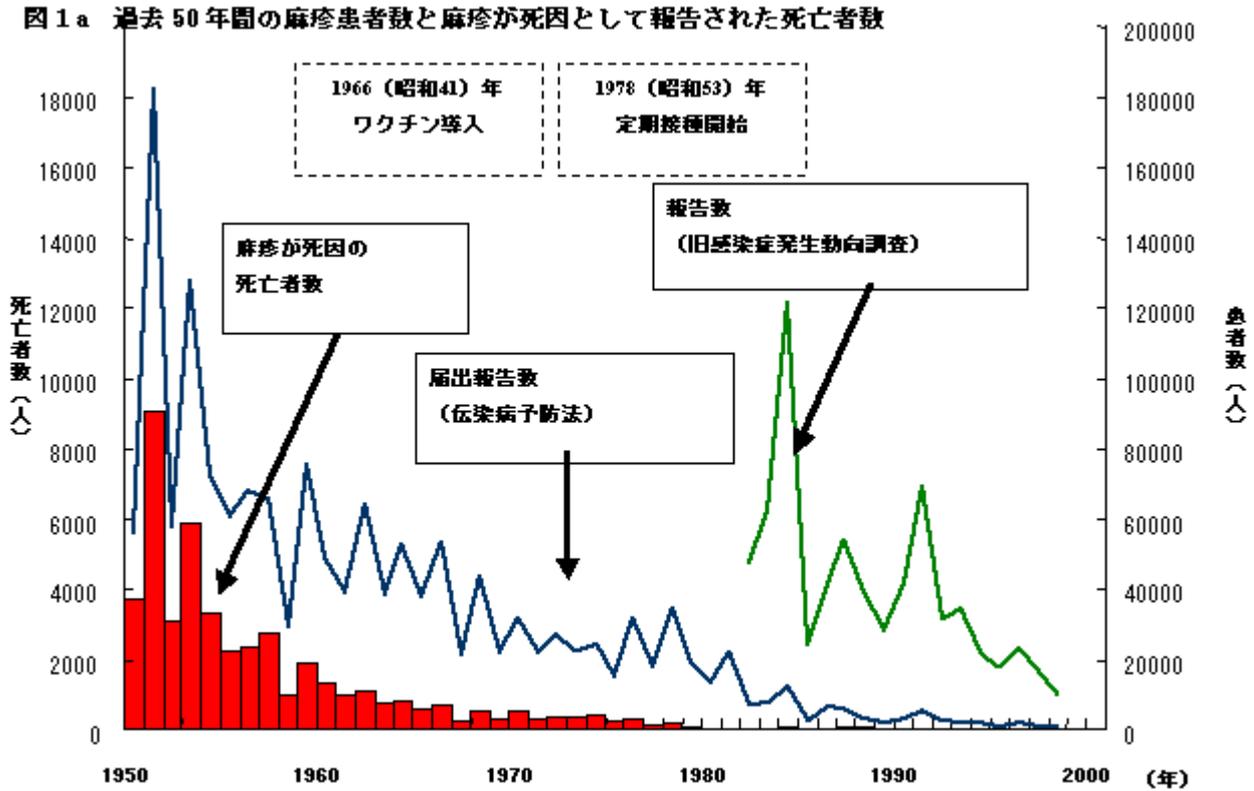
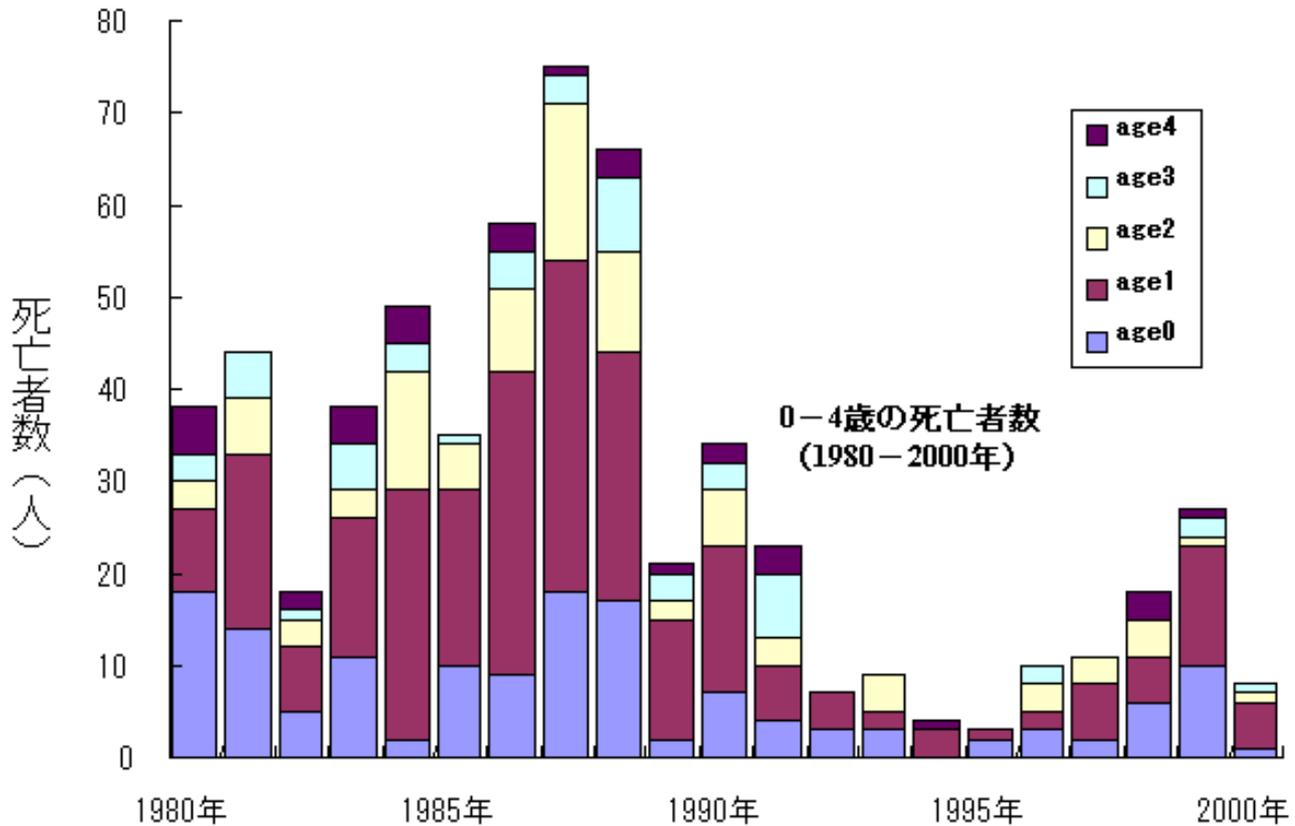


図 1c 過去 20 年間に麻疹が死因として報告された乳幼児死亡者数



昭和 53 年から麻しんワクチンは定期接種になり、平成 6 年から風疹ワクチンは男女を問わず接種することになりました。最大で 9000 人いた麻しんが原因の死亡者数は現在ではほぼ 30 名以下と激減しました。麻しんの流行は図 1a を見てわかるとおり、最近ではほとんど流行が見られないという状況になりました。

麻しんの流行が見られないのはいいことなのですが、そのためにこどもの麻しんの免疫には大きな変化が起こりました。それは、流行がなくなったために、ワクチンで獲得した麻しんに対する抵抗力が維持できなくなったことです。ワクチンで一度獲得した麻しんに対する抵抗力は、ブースター効果といわれる途中で麻しんのウイルスにこどもたちがさらされ、症状は出ないけど抵抗力が増すことで維持されます。流行の減少はこどもにとっては死に至る病の麻しんにかからない至福の時間を与えましたが、抵抗力を増やす機会は奪ってしまいました。このため、かなり以前から小児科関連の学会では麻しんの 2 回接種を早急に実現することを政府にお願いし、この春ようやく実現の運びになったわけです。4 月と 6 月の 2 段階に始まったのは、行政側の混乱があったのかもしれません、多くのこどもたちが 2 回接種を受けることができるようになったのは朗報です。アメリカなど先進各国はおたふく、水痘まで含めて 2 回接種が主流になりつつあり、日本でも今後そのように進んでいくものと思われます。

風疹に関しては同様にお考えください。風疹の流行があると妊娠するお母さんに風疹の免疫があったとしても、ごくまれにこどもに目や心臓に障害を持って生まれてくることが知られており、風疹の流行を根絶することで、これから生まれてくるお子さんに大きな利益をもたらす集団防衛の要素がこの 2 回接種の意味合いに含まれています。

現在、小学校にすでに入学しているお子さんには任意接種で MR ワクチンを行うことは可能ですが、地域で麻しんが発生したときにすぐ対応できるような状況にしておけば、今すぐワクチンをしなければならぬということではありません。そのためにも、学校から出る感染症の注意文書にはきちんと目を通すようにしてください。